



書評

[評者]

岩永 史郎

埼玉医科大学国際医療センター教授・心臓内科

病態・類似疾患別心エコー図検査のルーティン [Web 動画付]

小谷 敦志 編

OSAKA 心エコー研究会 執筆

●AB判 頁288 2025年6月

定価：6,820円(本体6,200円+税10%)

[ISBN978-4-260-05979-4] 医学書院刊



長く心エコー図検査に携わり、1997年から心エコー検査室の責任者として医師や検査技師を指導してきた私が最も強調してきたことは、「正しい断面像」を描出することである。私のいう「正しい断面像」は、画像がくっきりきれいに描出されているだけの像ではない。「正しい断面像」は再現性の高い正確な計測が可能な像である。論文や教科書には champion data といわれる著者が最も良いと考えた画像が掲載されているはずである。しかし、出版されている論文や教科書に掲載された画像は、私の考える「正しい断面像」ではないことが少なくない。計測に適さない画像で得られた研究結果は、結論の信憑性が疑われることになる。

書籍『病態・類似疾患別心エコー図検査のルーティン』は、小谷敦志先生と、小谷先生が主導する OSAKA 心エコー研究会の先生方が記述されたものであるが、拝見してまず感心したのは掲載されているすべての心エコー画像が私の考える「正しい断面像」と言えることである。小谷先生が私と同様に計測の正確さを重要視していることを示してお

り、本書の計測値の信憑性は保証できる。加えて、計測する断面、計測した時相、基準値も記載されていて、初心者が心エコー図検査を学ぶために非常に役に立つものとなっている。

心エコー図検査は動画による診断が基本となる。本書の企画では、病変グレード別の動画を Web 上で確認することができる。動画を見たうえで本書を読むと、心エコー図検査に関する理解がより進むと考える。実際の臨床では、心エコー図検査を行って、診断をつけた後に報告書を作成して、依頼した医師に所見や診断結果を伝える必要がある。本書には、疾患ごとに報告書に記載される頻度が高い「鉄板フレーズ」が列記されており、報告書を作成する際にも役立つ。本書は心エコー図検査から報告書作成までのプロセス全体をカバーする教科書となっている。

本書の内容を理解することによって、読者が心エコー図検査を学び、診断精度を高め、適切な報告書を作成できるようになると確信している。